

平成30年度 自己点検・自己評価

東京上野日本語学院

【評価】

5：達成している 4：ほぼ達成している 3：どちらともいえない 2 取り組みを検討中 1：改善が必要

1. 教育理念・目標等	評価
1 1-1 教育理念・教育目標・育成人材像は明確に定められているか	5
2 1-2 教育理念・目標に基づく教育が行われているか	5
3 1-3 学校の将来構想を抱いているか	5
4 1-4 理念と教育目標が教職員・学生に周知されているか	4

《現状・具体的な取り組み／課題》

<教育理念>

日本語教育を通じた、学生自身の掲げる夢の実現。

<教育目標>

自己実現に向けてチャレンジしていける気概と思いやりを持ったグローバルな人材の育成

- 1) コミュニケーション能力の向上による、国際社会で活躍できる人材の育成
- 2) 日本での実社会生活に役立つ実践的な日本語教育
- 3) 日本語教育を通じた国際交流と、文化・社会の価値観・生活習慣などの相互理解

[現状・具体的な取り組み／課題]

- ・上記の理念・目標に沿って、日本語が「わかる」だけでなくコミュニケーション力を高めるための実践的な日本語教育を行っている。クラスは学習到達レベルによって分かれており、計画性と柔軟性を持って指導している。また複数国籍の学習者が在籍することにより共通語が日本語になり、校内が交際交流の場ともなっている。
- ・中期・長期のビジョンを策定し、その中で学生のニーズに応じた見直しを実施している。
- ・理念等は、学内掲示・HP掲載・学校案内等により周知を図っている。スタッフに対しては、入社前の研修時より理念と目標の共有を図っているが、さらに意識づけが必要と思われる。また、学生に対しては、授業の実践や生活指導において達成すべき目標を具体的に示し、理解、周知に努めているが、目標達成のためにどのように取り組んでいくかが継続課題である。

2. 学校運営	評価
5 2-1 運営方針は定められているか	5
6 2-2 事業計画は定められているか	5
7 2-3 運営組織や意思決定機能は確率され、効率的なものになっているか	5
8 2-4 人事や賃金での処遇・職場環境の改善に関する制度は整備されているか	5
9 2-5 情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4
10 2-6 学校運営を客観的に評価し、維持向上させる機能が整備されているか	5
11 2-7 危機管理体制は整備されているか	5
12 2-8 施設・設備は教育上の必要性及び学生の安全確保に十分対応できるように	5

「日本語教育機関の運営に関する基準」に適合しているか

[現状・具体的な取り組み／課題]

- ・昨年度同様、上記の教育理念のもと、毎年、事業計画を策定し、定性・定量の両面から具体的に目標を定めている。これらの目標達成に向け、学校全体の運営は学校長を中心に定例会議を行い、意志決定されている。
- ・処遇・職場環境の改善に関する制度については、設置会社の人事規定により適切に運営されている。
- ・情報システム化については、ソフトウェア会社に保守・管理を委託し、また学生情報を一元管理することにより効率化を図っている。今後は更なる効率化を目指して情報を集め、改善を進めていくことが継続課題である。
- ・学校運営の客観的評価については、顧問弁護士・税理士・社会労務士によって定期的に実施され、指導を受けている。
- ・危機管理体制としては、消防計画を管轄消防署に提出の上、定期的に避難訓練を実施し教職員並びに在校生の意識強化を図っている。また震災への備えとして水・食料等の備蓄を行っている。施設・設備については、昨年度、エレベーターの耐震工事を予定通り実施し、学校教育法ならびに日本語教育機関のガイドラインを遵守した整備がされている。

3. 教職員		評価
1 3	3-1 教育理念・教育目標が教員間で共有されているか	4
1 4	3-2 教育の質を向上させるための取り組みが確立されているか	4
1 5	3-3 教職員評価を行っているか	4

[現状・具体的な取り組み／課題]

- ・学校長、事務局長を中心とした年4回の学期間会議等への参加等により、教職員の理念・目標の共有化ができています。非常勤講師については、採用時よりその意識を共有し、3か月ごとの教師会で確認を行っている。また、新人講師研修や教案相談等を通し、継続的に意識の共有、また、教育の質の向上を図っている。さらに、講師同士の授業見学、勉強会の実施、教務主任の授業参観等を実施している。教育の質については、さらに向上を図る必要性がある。新人講師研修は個別に時間をかけて行っているが、勉強会など教師の研鑽の時間をいかに増やすかが課題である。
- ・講師評価については、学期ごとに講師個人が目標を設定し、学期末に当人の自己評価を申告。さらに、授業参観や日常の学生対応等も加味し、評価を行っている。
- ・職員の評価については、学校長・事務局長により行われているが、より明確な評価項目の策定が引き続きの課題である。

4. 教育活動		評価
1 6	4-1 カリキュラムは体系的に編成されているか	5
1 7	4-2 授業評価の実施・評価体制はあるか	3
1 8	4-3 目標に向け授業を行うことができる要件・資質を備えた教員を確保しているか	4
1 9	4-4 成績評価は適切に行われているか	5
2 0	4-5 各種日本語試験の認定率向上のための指導体制は整っているか	4

[現状・具体的な取り組み／課題]

- ・カリキュラムは、学習到達レベルに合わせ3か月を1期として編成されている。それに基づくクラス分けがなされ、レベルに合ったシラバス、科目による教育が提供されている。
- ・講師の勉強会や授業参観による授業評価を実施している。アンケート等による学生評価等の実施に関しては、いまだ検討中の課題である。
- ・上記の講師勉強会や教案相談等の実施により授業力の向上に努めているが、資質を備えた講師の増員については継続的課題である。
- ・学生の成績については、クラスごとに教材の課毎テスト、学期末テストを実施、さらに日常点も加味して評価している。また、クラス担任制をとっており、学期末（さらに必要に応じ、学期開始時及び期中にも）に学生一人一人に対する面談の実施、学期成績表を出す等、継続的に学習指導を行っている。
- ・各種日本語試験に対しては、学内模擬試験の実施、学外模擬試験の紹介を行っている。また、学生のニーズ・レベルに合わせた試験対策の選択授業を実施し、認定率向上を図っている。

5. 学生支援		評価
2 1	5-1 進学・就職に関する体制は整備され、有効に機能しているか	4
2 2	5-2 学生の相談に関する体制は整備され、有効に機能しているか	5
2 3	5-3 学生の心身の健康管理・事故・怪我サポートの体制が整っているか	5
2 4	5-4 学生寮等、学生の生活環境への支援は行われているか	5
2 5	5-5 保護者と適切に連携しているか	5
2 6	5-6 卒業生への支援体制はあるか	5

[現状・具体的な取り組み／課題]

- ・学生の進路は、大学院・大学・専門学校・就職のいずれかであり、定期的な進路調査とクラス担任の面談等により学生の進路希望を把握している。
学内での進学説明会を年複数回実施し、情報提供・学生の意識向上に努めている。また、クラス担任と進路指導担当者が連携し、願書の書き方指導や面接練習など学生一人一人にマンツーマンでの指導を実施している。外部進学説明会について適宜案内し、また、学内において上級学校の担当者による説明会を実施している。
- ・受験した学生の受験体験情報をまとめ、ファイル化して在校生に情報開示をしている。
- ・経済状況や進路希望の変わる学生も多いため、日常的な情報収集と学生対応を速やかに行っていくことが今後の課題である。
- ・学生の生活面での相談やサポートについては、できる限り母語での対応を行っている。また、不測の場合に備え、365日24時間対応可能な母語別緊急連絡先を学生に周知している。
- ・対象となる学生全員が国民健康保険に加入しており、管轄保健所の指導による健康診断も定期的実施している。
- ・当校直営の学生寮を学校から徒歩圏内に用意しており、日本人管理人が常駐している。また、専属の管理会社による定期巡回管理、生活指導も継続して行われている。必要に応じ、学校スタッフも寮での指導を行っている。管理会社と学校の情報共有により寮生へ支援は有効に機能している。
- ・また、全在校生に対して学期ごとに生活に関するオリエンテーションを実施し、学生の意識向上を

図っている。日常的に、支援を必要とする全ての学生に対して相談に乗る体制が整っている。

- ・文化や生活習慣の異なる学生に対し、ゴミ捨てや掃除、騒音等、生活上のマナーやルールに関して、問題があった場合はその都度個別に対応、指導を行っている。また、ポスターや絵などの見てわかる掲示物の作成を行っている。今後、さらなる意識向上を図るためのよりよい指導を検討・実施することが課題である。
- ・学生に何らかの問題が生じた場合は、保護者や留学紹介機関と速やかに連絡を取り、連携して対応する体制となっている。
- ・卒業生が、進学や就職に関する支援、また、その他生活相談や学習相談等を必要とする場合には事務局及び教務部にて支援を行っている。また、書類発行等の手続きについては事務局にて速やかに対応している。

6. 在籍管理と生活指導		評価
27	6-1 入国・在留関係の管理・指導と支援が適切に行われているか	5
28	6-2 日本社会を理解するための支援が適切に行われているか	4
29	6-3 我が国の法令を遵守させる指導を行っているか	5
30	6-4 常に最新の学生情報を把握しているか	5

[現状・具体的な取り組み／課題]

- ・入学時に母語でのオリエンテーションを行い、順守すべき社会的ルールや学校の規則・学則、基本的な生活習慣や生活マナーについて指導している。
- ・特に、日本のルールについてはオリエンテーション時に警察署の担当者より直接指導を受けている。また、自転車の交通ルールについては管轄の警察署より借りたビデオによる指導、注意喚起を行っている。その際、理解の助けとして東京都作成の母語別マニュアルを配布している。また、3か月ごとのクラスオリエンテーション実施その他、日常的に必要な指導を行っている。
- ・消防署の指導の下、年1回の防災訓練を実施し、意識向上に努めている。
- ・学生情報は個別にデータ管理を行っている。教職員による日頃の情報収集・管理は当然ながら、年2回の「生活現状調査」、3か月ごとの担任面談を昨年度より継続的に実施し、指導に役立てる体制をとっている。

7. 学生の募集と受け入れ		評価
31	7-1 学生の受入方針は定められているか	5
32	7-2 学生募集活動は、適正に行われているか	5
33	7-3 学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	2
34	7-4 入学選考は、適正かつ公平な基準に基づき行われているか	5
35	7-5 適正な定員設定及び在籍者数になっているか	5

[現状・具体的な取り組み／課題]

- ・学生の受け入れについては、事業計画に基づき、日本語学習目的、日本語学習歴、経費支弁能力等において問題のない学生を受け入れている。
- ・学生募集については、中国（西安）に当校事務所を設置しており、学習意欲の高い学生の募集活動を行っている。
- ・その他の国・地域の学生募集については、現地の信頼できる留学紹介機関を厳選し、契約を結んだ

上で受け入れ窓口としている。できるだけ現地に教職員が赴き、窓口となる紹介機関との信頼関係を深め、情報共有を図ることとしている。

- ・教育成果については入学相談の際に「進学準備および進学実績」についての説明を行っている。学生の卒業後の進路に関しては、具体的な進学先・就職先のHP公開を予定しているが、今年度は実施できず、次年度の実施課題である。
- ・入学選考については、中国・ベトナムでは本校教職員が現地にて入学希望者に対する学校説明会を実施し、学生本人と経費思弁者の面接等も行っている。その他の国や地域についてはWeb環境を用いた面接を実施している。これら面接および日本語試験、書類審査手続きに関し、本校の受入基準にのっとり適正かつ公平に行われている。
- ・定員については、関連法規に従って適正に設定されている。

8. 財務	評価
36 8-1 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	5
37 8-2 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	5
38 8-3 財務について会計監査が適正に行われているか	5
39 8-4 財務情報公開の体制整備はできているか	2

[現状・具体的な取り組み／課題]

- ・当校の経営母体である有限会社オリエントビルにおいて、中長期的に財務基盤は安定している。
- ・予算・収支計画については設置会社の株主総会及び役員会で審議・承認されており、また、定例会議にて具体的な進捗状況の確認も行っており、有効かつ妥当なものになっている。
- ・決算においては、適切な会計処理を行い、顧問税理士による監査も行っており、監査結果については、設置会社の株主総会において報告し、承認を受けている。
- ・財務情報公開については現在検討中である。

9. 法令の遵守	評価
40 9-1 法令、設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	5
41 9-2 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4
42 9-3 関係省庁への定期報告を遅延なく実施しているか	5
43 9-4 自己点検・自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	3
44 9-5 自己点検・自己評価を公開しているか	4

[現状・具体的な取り組み／課題]

- ・本校は法令や設置基準を満たしており、法務省より「適正校」の認定を受けている。東京入国管理局への定期報告等も適正に行っている。
- ・個人情報の扱いについては「プライバシーポリシー」を規定し、個人情報の保護に努めている。が、書類管理・パソコンのウイルス対策など、今後継続的に更なる注意が必要である。
- ・自己点検・評価については、今後も定期的に行い、問題点の洗い出しに止まらず、改善に努め、公開していくことが課題である。

10. 社会貢献	評価
45 10-1 学校の教育資源や施設を利用した社会貢献を行っているか	2

[現状・具体的な取り組み／課題]

- ・現在、近隣の高校や大学生国際交流団体及び日本人ボランティアとの異文化交流を行っている。また、近隣の会社の企画に参加する等、地域の一員としての活動もあった。次年度以降も、より積極的に異文化理解の向上に努めていきたい。
- ・今年度は、学校としてボランティア活動への参加や情報提供等、地域貢献・社会貢献への支援を行うことができなかった。今後の課題である。

総括

本年度は日本語指導、進学指導においては昨年度同様、一定の成果が得られた。来年度は日本語教育力のさらなる向上、また、進路指導においてはスピード感と情報共有を課題に進めていきたい。また、情報管理と情報伝達について課題の改善に努め、さらに効率化と充実を図ることが課題である。

以上